

# **ASTAGE CAMP 2015 SPRING AND AUTUMN**

—留学生と日本人学生との交流合宿—  
報告書



**YNU International Student Center 105**

Spring (第15回)

日時：2015年5月30日(土)～31日(日)

場所：野島青少年研究センター

Autumn (第16回)

日時：2015年11月14日(土)～15日(日)

場所：南万騎が原青少年自然公園

横浜国立大学 国際教育センター105

## はじめに

今年度も国際教育センター105（交流・相談室：通称105）の活動を無事継続し、第15回、第16回目となるアステージキャンプの報告を発行することができうれしく思います。

2015年度は105にとって変化の年となりました。ひとつの変化は場所の移転です。2001年に105が発足して以来、活動拠点としていたセンターの105室から2階ロビーへ場所が移りました。部屋という形態ではなくなり、ものの管理や設備に不便が生じたものの、センター正面入り口すぐ横の目立つ場所に位置することで、105を訪れる留学生数も秋学期には大幅に伸び、年間では800名を越える利用がありました。

もうひとつの変化は、105が国際戦略推進機構長直轄の活動として位置付けられたことです。これまで留学生センター（現国際戦略推進機構）の留学生支援の一環として生活指導部門教員の指導のもとに学生スタッフが活動を行ってきましたが、必ずしも学内で広く認知されてはいませんでした。機構長のサポートを得て、学内での理解や認知も広がってきているのではないかと思います。学生スタッフにとっても大学の留学生支援や交流推進の一翼を担っているという自負が活動の原動力ややりがいにもつながっていると考えられます。

さらに、105では十分カバーされていなかった理系学生を主な対象としたサポート組織 ISL (International Students Lounge) が秋学期に学内ローソン内に設置されたことも変化のひとつとして挙げるができます。ISLは105のOBでもある都市イノベーション学府の小松助教の発案のもと機構長にもご尽力いただき、こちらも機構長直轄の活動として立ち上がりました。105の学生有志が ISL のスタッフとして立ち上げに協力し、今後も連携しながら留学生支援や交流の活動を行っていくことになりました。

巻末に105の年間の活動が簡単に紹介されていますが、今年度は日々の活動、日本語トークタイム、交流イベントへの延べ参加者数はこれまでで一番多い2000名ほどになりました。活動を通じて留学生、一般学生が、支援をする側、される側といった関係に留まることなく、互いに学び合い、成長していけることが、この活動のよさだと思います。今後とも105の活動にご理解とご支援を頂く上で、この報告書が一助となることを願っています。

国際戦略推進機構企画推進部門  
藤井桂子

## 第 15 回 ASTAGE CAMP 2015 春



### 【テーマ「アステージを国際交流の場にする」】

今年で4回目となる春の ASTAGE CAMP では、例年以上に「国際交流」に重きを置いて企画を行った。その中でも特にこだわったのが、スタッフの立ち位置である。最近の105のイベントは、105スタッフの仕事負担の増加が目立っており、当日、留学生をはじめとする参加者と積極的に交流する余裕がなかった。そういった課題を解決すべく、これまでの ASTAGE CAMP 以上に準備を入念に行い、共有することに重点を置いた。また、新たな試みとして、参加者向けの事前説明会を行った。このような事前準備に力を入れたことが功を奏し、当日は、非常に円滑にイベント運営が出来たと考える。しかし、運営上での反省点もいくつかあり、今後の ASTAGE CAMP に活かせるように、この報告書に記載する。

## 【概要】

日時 2015年5月30日(土)～5月31日(日)

場所 野島青少年研修センター

参加費 2,300円

参加人数 76人

## 【当日までのスケジュール】

1月下旬 総括・副総括 決定

2月上旬 藤井先生とミーティングをして候補日を決定

3月初旬 野島青少年研修センターに予約が確定

3月下旬 総括ミーティング 今後のおおまかな流れの把握・共有・確定  
(班決め、広報、受付期間などの決定)

4月中旬 参加スタッフ確定、班決め 下見、現地スタッフとの打ち合わせ

4月下旬～ 広報開始(ビラ、facebook)

5月初旬～ 参加者募集

5月中旬 参加者募集締め切り、スタッフマニュアル、参加者用冊子完成

5月下旬 参加者向け事前説明会、最終調整

【参加者名簿】

男性参加スタッフ……13名

氏名	国・地域	所属
チョウ セイクン	中国	理工学部
オガワ サトシ	日本	経営学部
イシイ キョウイチ	日本	経営学部
ネモト ケンタロウ	日本	経営学部
アキモト リョウタ	日本	経営学部
マルハシ セイヤ	日本	経営学部
グエン ワン フィ	ベトナム	理工学部
タケダ ユウキ	日本	理工学部
リ ショウ	日本	経営学部
イトウ タイチ	日本	経営学部
イリヤマ ダイガク	日本	理工学部
グエン ニュウ ナム アイン	ベトナム	教育人間科学部
ツボイ シュンスケ	日本	理工学部

女性参加スタッフ……19名

氏名	国・地域	所属
ナベタ カホ	日本	経済学部
キム ミソ	韓国	教育人間科学部
イトウ マリア	日本	経営学部
シミズ ナツキ	日本	経済学部
イノウエ ハルカ	日本	教育人間科学部
モーガン シモン	南アフリカ	教育人間科学部
テヅカ トモミ	日本	経営学部
タジマ ミナミ	日本	教育人間科学部
マツモト アカネ	日本	教育人間科学部
フクシマ ユキコ	日本	教育人間科学部
イマイ リホ	日本	教育人間科学部
イデグチ アヤカ	日本	経営学部
マツダ レイコ	日本	経済学部
ユキ カヨ	日本	経済学部
アイカワ サナミ	日本	経営学部
ナガトモ アヤカ	日本	経営学部
タンノ アイ	日本	経営学部
ホンジョウ ミサ	日本	教育人間科学部
レ ゴック バオ ヴィー	ベトナム	経営学部

男性一般参加者…… 20名

女性一般参加者…… 23名

国・地域	所属	国・地域	所属
韓国	世宗プログラム	日本	経営
韓国	世宗プログラム	アメリカ	YCCS
カナダ	YCCS	ノルウェー	JOY
アメリカ	YCCS	モンゴル	経済
韓国	世宗プログラム	韓国	世宗プログラム
ベルギー	JOY	韓国	世宗プログラム
オーストラリア	JOY	イギリス	JOY
中国	理工	中国	経営
日本	経済	ロシア	YCCS
韓国	理工	日本	教育人間科学部
ドイツ	JOY	アメリカ	YCCS
日本	教育人間科学部	中国	YCCS
韓国	世宗プログラム	ベトナム	経営
韓国	世宗プログラム	日本	教育人間科学部
スウェーデン	JOY	日本	経済
日本	経営	韓国	世宗プログラム
日本	経済	ベトナム	YCCS
韓国	世宗プログラム	日本	経営
イタリア	JOY	日本	経営
イギリス	JOY	アメリカ	教育人間科学部
		オーストラリア	JOY
		フランス	JOY
		ニュージーランド	JOY

- 引率教員：藤井桂子（国際戦略推進機構）

## 【当日スケジュール】

< 1 日目 >

- 12:00 横浜駅西口 相鉄交番前 スタッフ集合
- 12:15 参加者集合
- 14:00 到着 入所式
- 14:30 アイスブレーキング
- 15:00 レクリエーション1日目 (室内)
- 17:00 夕飯作り
- 18:30 夕飯
- 20:00 キャンプファイヤー
- 21:00 入浴
- 22:00 スタッフミーティング
- 22:15 懇親会

< 2 日目 >

- 7:00 スタッフ起床
- 7:30 全員起床
- 8:00 朝食、サンドイッチ作成
- 9:00 退所準備 (施設掃除)
- 9:30 退所式、移動
- 10:00 レクリエーション2日目 (屋外の広場)
- 12:00 終了、解散

## 【スタッフ役職】

総括： イトウ マリア

副総括： シミズ ナツキ

1 日目レク班リーダー： キム ミソ

2 日目レク班リーダー： ナベタ カホ

キャンプファイヤー・懇親会班リーダー： ネモト ケンタロウ

食事班リーダー： マツダ レイコ、マツモト アカネ、イマイ リホ

## 【新しい取り組み】

### 事前説明会

今回、二日間にわたって昼休みに事前説明会を行った。前回までは、ASTAGE CAMP 当日より前に、参加者が集まる機会はなかった。しかし、今回は、当日までに参加者同士やスタッフが、参加者の顔や雰囲気をつかむことができた。また、持ち物やスケジュール、決まりなどの重要な連絡ができ、非常に有意義であったと考える。スタッフにとっては少しやるが増えてしまうが、ぜひ今後も続けてほしい準備の一つである。

### 食事班のシフト制

ASTAGE CAMP の運営において、食事班は当日の仕事量が多く、例年レクリエーションなどの活動に参加できないケースが目立った。そこで今回取り入れたのが、食事班の準備のシフト制である。他の班よりも倍の人数を食事班に回し、半分の人数になっても食事準備が円滑に進むように工夫した。また、レクに参加できるスタッフも増えたので、レクの運営もスムーズにいくというメリットもあるだろう。今回は、直前になってスタッフ人数が変更になり実現出来なかったが、次回以降でぜひ取り入れてほしい。

(詳しくは、後述の食事班報告を参照)

## 【改善すべき点】

### 食材の発注

今回から、野島青少年研修センター近くの商店に食材を発注した。しかし、商店と食事班の連絡がうまく取れず、見積書の確認などがスムーズに進まなかった。今回初めて食材発注を行ったため、今後はうまく連携が取れるように対策を考えるべきだと考える。

(詳しくは、後述の食事班報告を参照)

当日は天候にも恵まれ、二日目は外でのレクリエーションを行うことができた。留学生と参加者は共に汗を流しながらレクリエーションを楽しんだ。次のページからはスケジュールの詳細について書いてみたい。



# 1日目レクリエーション 報告書

文責：キム ミソ

## 【1日目レクリエーション（1レク）概要】

アイスブレーキング、1日目レクリエーションを担当。レクリエーションは前半後半に分け、食事班が参加できるようにした。（※結果的には参加できなかった。）

## 【レクの概要と反省点、改善すべき点、良かった点】

### アイスブレーキング

アイスブレーキングとは、レクリエーションに入る前に行う、緊張をほぐすための簡単な自己紹介などのアクティビティーである。大まかな流れとして、まずは普通に自己紹介をしてもらい、次に「〇〇祭り（世界の有名なお祭り）に参加するなら」「もし人間以外の動物に生まれ変われるのなら」という題を元にグループで自由に話し合ってもらった。良かった点は、お祭りに関しては写真と概要が書いてある紙を用意したため、イメージしやすかったことである。また、祭りの開催国出身の留学生が祭りにまつわる面白い話等をしてくれたため、交流に繋がったのではないかと考える。反省点としては、話が盛り上がるまで時間がかかってしまったこと、急なキャンセル等で班員が不足し、スタッフがいない班が出来てしまったことである。改善すべき点としては、もう少し綿密にアイスブレーキングの内容を詰めること、キャンセルが発生した場合班員の調整をするなどの工夫を行うことが挙げられる。

### 前半レク

前半レクではマシュマロチャレンジというゲームを行った。マシュマロチャレンジは、理工学部の新入生歓迎行事で行われる有名なゲームである。アイスブレーキングと前半レクは同じメンバーで行った。休憩をはさんだ後、各班で決まった場所に座ってもらい、スタッフが必要なものを配布後にルールを説明し、ゲームを開始した。良かった点は、メンバーがアイデアを出し合い、全員で一つのものを作ることができていたことである。反省点は、最後にTEDのビデオを見せる際に音響の確認をせずに、結果的にマイクで音を流していたことである。また、ゲームのルールは簡単であるがイメージが掴みにくく、作業に取り掛かるまで時間がかかり、ゲームの中での作業時間が短くなってしまった。

## 後半レク

後半レクではクイズ大会を行った。国際交流をテーマに世界の雑学や世界遺産にまつわる問題を出し、チーム戦を行った。問題を3種（雑学、世界遺産、世界地理）に分け、それぞれ3問を出題、1種につき2人が前に出てチーム代表として答えを考えてもらった。良かったことは、チーム戦にしたことで団結力が増し盛り上がったこと、世界の様々な豆知識を使った問題にしたため国際理解に少しは繋がったことである。反省点は、問題の内容が難しく理解出来なかった時があったこと、問題に不備があり参加者が混乱してしまったことである。

### 【全体を通しての良かった点、反省点、改善すべき点、その他】

今回は、合宿のまとめ役である総括達のアイデアにより、食事班もゲームに参加してもらう為にレクを前半、後半に分けた。結果的には参加出来なかったが、今後もこのようにしてスタッフも交流できるようなレクにすることが望ましい。1種のゲームが終わる度に細かに休憩を挟んだことで参加者がゲームに集中できたことが良かった。また、事前に当日までの仕事の締切りを細かに決め班員で共有したことにより、最後の方ギリギリで詰める事態にならなかったことが良かった。反省点としては、当日レクの説明を誰がするか決まっておらず、その場で決めてしまったことと説明のリハーサルをしなかったことである。次回からはしっかりリハーサルを行うべきである。



# 食事班 報告書

文責：マツダ レイコ、マツモト アカネ、イマイ リホ



## 【概要、当日の流れ】

### (1) 前日まで、荷物分担

野島カレーや他の食材を発注し、事前に食器等を購入した。食材発注先の武牛乳店は野島研修センター内にあり、当日の受け取りが楽だった。紙皿やコップなどは100円ショップ等で購入し、種類ごとに分け当日だれが何を持っていくか明確にした。



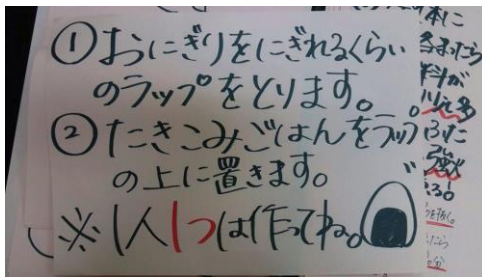
### (2) レクの裏で食事準備

当日食事班は、14時ごろのアイスブレーキングのみ参加し、それ以降は全員で夕食準備をした。米を最初に炊き（炊飯器のトラブルが心配されたが、無事炊けた。）カレー、サンドイッチ（翌日昼）とおにぎりの具材、サラダを並行して作った。16時頃から、2日目レク班の2人が加わり、手伝ってくれた。



(3) 2日目の朝食、昼食準備

2日目昼のサンドイッチ用のたまご、朝食用のおにぎりを三か所で作ってもらった。レクから帰ってきた参加者の中で、指定した2つのテーブルの人たちに卵づくりを頼み、そのあと全員でおにぎりを作った。作り方の指示は事前に作成しテーブルに貼っていたが、スタッフも2人配置し、日本語と英語での説明を頼んだ。



(4) 夕食

カレーは食堂から配膳、サラダはサラダバー形式で取ってもらった。

(5) 片付け

各テーブルに用意したビニール袋ごとにごみを集め、食器を洗った。この時、余ったごはんがあったのでおにぎりも同時に作っていた。

(6) 朝食

インスタントお味噌汁の準備、サンドイッチの具材の準備。参加者には順にレンジでおにぎりを温めてもらっていたが、レンジが一台しかなかったためサンドイッチを先に作るように頼んだ。最終的には、おにぎりとおにぎりとサンドイッチの好きな方どちらかを朝食にするという方法に変わった。

【新しい取り組み】

(1) シフト制の導入

当初、食事班を二つに分けて、レク1レク2のどちらかには参加できるようなシフトを組んでいた。しかし、のちにメンバーが減る変更があったため、シフト制はなしでやり、さらに2レク班から2人ヘルプを呼んで対応した。シフト制については見送ることになってしまったが、次回からは是非採用してほしい。

(2) 当日の動きを細部まで決める

工程ごとに責任者を決め、メニューを作る段取りを決めた。(カレー作りに○人おき、その担当者が責任をもって作る。など) 時間と調理器具に限りがある中で、効率の良い動き方ができた。→食事班メンバーが夕食を食べる時間の確保などにつながった。

(3) 食材発注・野島カレー

研修センターで野島カレー(カレーの具材を用意してくれる、一人200円)を注文、武牛乳店でその他の食材を注文した。武牛乳店では、自分たちの希望する食品をすべて取り寄せられた。(米、野菜からふりかけまで)

### 【良かった点】

(1) ハラルカレーが好評だったこと

ムスリムの参加者はいなかったが、ベジタリアン(肉由来成分も食べられない)がいたため、ハラルカレーを提供。そのカレーは綱島のハラル料理店で調達。通常のものとはルーのみ違うカレーを作った。また、ムスリムとベジタリアン配慮のために原材料確認を念入りに行った。参加申込書に連絡先を書いてもらったので、本人への相談体制があり良かった。



(2) 臨機応変に動けた

直前でシフト制の導入を断念したが、他の班からヘルプをもらうなどして人員確保ができた。また本番中、二日目の朝食でレンジが混雑した際に、朝食をサンドイッチとおにぎりの選択制に急きょ変え、スムーズに動いてもらえた。

(3) 荷物分担

車での輸送ができなかったため、荷物は個人で当日にもっていく形となった。事前に持ち物を小分けにし、メンバーに担当を割り振った。食事班で持ちきれない分は他の班にも頼めた。

- (4) 皿を買ったので片付けが楽だった  
基本的に施設の食器は使わず、紙コップ、紙皿、箸等を購入したため、後片付けが楽だった。(105備品管理を徹底して、無駄なく買い出しができた。)

### 【改善すべき点】

- (1) コップが足りなかった  
二日目のピクニック用にも参加者数は用意し、予備を準備してもいい。
- (2) 朝、レンジでおにぎりを温めるのは大変  
野島の食堂にはレンジが一つしかなく、80人分のおにぎりを温めていくのは時間がかかりすぎる。(おにぎりに名前を付けないでおき、一括で温められればよい)
- (3) お茶を買いすぎた  
最終的に10本前後余った。
- (4) 発注でのトラブル  
注文をするのが遅くなったこと、レク班も同時に注文していたことがありトラブルが起きた。見積書に誤りあり→発注が遅れる。
- (5) ツナマヨ、卵の時間のリマインド不足  
当初の計画より遅めに進んでしまった。監督に入ったメンバーは参加者にリマインドをしていくようにするべきだ。
- (6) 野島カレー80人分でカレールーが足りなかった
- (7) 野島カレーと宿泊代のレシートが一緒になってしまった  
別々にしないと経費上問題があるので注意する。

# キャンプファイヤー・懇親会班 報告書

文責：ネモト ケンタロウ



## キャンプファイヤー

### 【当日スケジュール】

19時	キャンプファイヤー準備開始
20時	参加者キャンプファイヤー場集合
20時35分	地震のため撤退・中止
21時50分	後片付け終了・スタッフキャンプ場撤収

### 【概要】

準備に関しては、職員の方がキャンプファイヤーのやぐらを組むなど大まかなことはしてくれましたので、薪を準備し投入するだけで済んだ。音響に関しては、研修センターから携帯のイヤホンヘッドに接続するスピーカーを借りられたため、特に問題はなかった。また、マイクが2本付属されているので、指示を出すのにも困らなかった。

参加者が集まったあとは、火の周りに大きな楕円を作りその内部でスタッフがマイムマイムの見本を披露した。なお、踊り方が少々難しかったため、見本を一回見せるだけでなく、踊り方を順番に教えた。参加者も自分の感じたように踊っていたので、特に大きな問題はなかった。マイムマイムの後は、1年生主体で考案した妖怪体操（アニメ妖怪ウォッチより）を踊った。これが比較的興味深かったためか、留学生も楽しんでいただいていた様子だった。

キャンプファイヤー中に地震が発生したのだが、比較的揺れが大きかったため少々取り乱す留学生もいたが、大きな問題はなかった。

今回使用した丸太は、研修センターが無料で提供してくれたものであった。研修センターが近所の方から譲り受けた丸太の使用方法に困っていたため、この丸太を利用できた。そのため、燃える時間の見当がつかないとのことだったが、特に問題はなかった。木に関しては準備・後片付けともに3人で対応した。

### 【良かった点】

- 仮スタッフ（1年生）の積極的な参加姿勢
- 晴れたこと、丸太がもらえたこと
- 一般の方も一緒に参加したこと

### 【改善すべき点】

- 円の形（場所がせまかったため）
- 実際に見せるだけでなく、踊り方の説明を加える（当日は即座に対応した）
- 地震発生時のアナウンス

## 懇親会

### 【当日スケジュール】

～22時15分	準備（ゴミ袋・紙コップ・ジュース・スナック）
22時15分～	懇親会開始
23時	ジュース・スナック第二陣を配給
24時	終了

特筆すべきことはないが、軽食配給の割合を前半後半6：4で行った。なお、ドリンク総数40本、菓子総数を55個に設定したが、ドリンクはややあまり、菓子はちょうどよかった。看過できないほどの問題はなかった。多くの参加者、スタッフが楽しく交流する場になっていた。





## 2日目レクリエーション班 報告書

文責：ナベタ カホ

【メンバー】7人(●が当日参加メンバー6人)

- イシイ キョウイチ
- テヅカ トモミ
- オクムラ ダイチ
- ナベタ カホ
- アイカワ サナミ
- グエン ニュウ ナム アイン
- グエン ワン フィ

### 【準備、予算】

週1回ミーティング

4/20-4/24 レク内容話し合い

4/27-5/1 レク内容決定

—GW—

5/11-5/15 レク詳細決め(クイズ内容、得点の付け方、ルール)、買い出しリスト作成

5/18-5/22 しおり作り、買い出し

5/25-5/29 レクデモンストレーション

5/30,31 アステージ!!

予算：7000円(大縄用ロープ、風船、ひも、はちまき用リボン、景品のお菓子)

### 【レク内容】

テーマ「8チームに分かれてミニ運動会！」

晴天時 場所：広場

- ・風船割りゲーム
- ・大縄跳び
- ・けいどろ

雨天時 場所：第一研修室

- ・風船名前さがしゲーム
- ・人間知恵の輪
- ・○×クイズ
- ・伝言ゲーム

## 【当日の流れ】

2 日目

8:30- 2 レクミーティング(晴天、雨天レクどちらにするか決定)

9:30- 退所式に参加せずに準備開始

10:00- レク開始

12:00- レク終了、全員で写真撮影

◎2 日目の天気について前日では判断が難しく、当日朝に晴天用のレクをやることに決定。なお、参加者の疲れ具合を考慮して「けいどろ」から「人間知恵の輪」に変更。

## 【新しい取り組み】

- ・ はちまきを用意し、運動会の雰囲気を出した。本物の はちまき を購入するのは予算的に厳しかったため、リボンで代用。
- ・ 休憩用のブルーシートを用意。
- ・ 参加者が今までやったことのないような風船を使ったゲームをした。

## 【良かった点】

- ・ 週一回ミーティングを開くことで、スムーズに準備が進められた。(やはり LINE で話し合うよりも直接会って話し合った方が早く多くのことを決定できる。)
- ・ 晴天、雨天どちらの場合も楽しめるように 2 つの企画を同じように丁寧に準備しておいた。
- ・ はちまきをしたことで運動会の雰囲気が出た。また、チームの識別もしやすくなった。
- ・ 4 チームずつ種目を行うことで休憩時間がしっかりとれた。
- ・ 参加者の様子を見て臨機応変に種目を変更し、結果的に盛り上がった。

## 【改善すべき点】

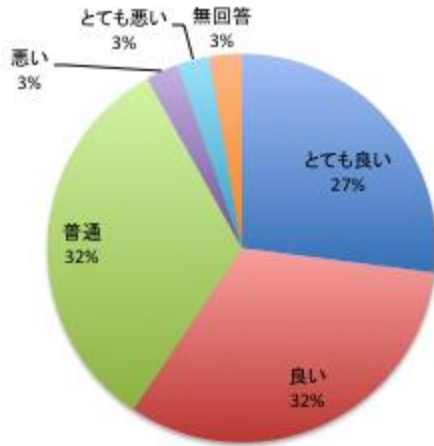
- ・ GW をまるまる休んでしまったのだが、リーダーが仕事をきちんと振って、しおり作りを早めに始めればよかった。
- ・ レク中の参加者の水分補給について考えていなかった。今回は食事のとき用の飲物が残っていたためそれを提供することができたが、もし残っていなかったら困ったと思う。
- ・ 風船割りゲームは参加者の準備が大変そうだった。

2日目外レクリエーション写真



## 2015 春アステージキャンプ 参加者アンケート集計結果

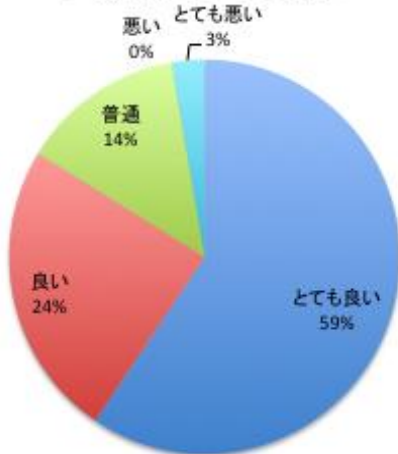
### 1日目レクリエーションはどうでしたか



### 夕飯づくりはどうでしたか



### 夕飯はどうでしたか



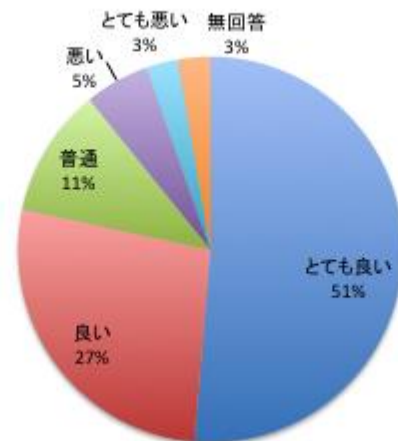
### キャンプファイヤーはどうでしたか



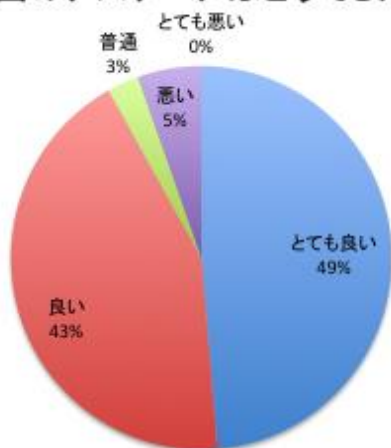
### 懇親会はどうでしたか



### 2日目レクリエーションはどうでしたか



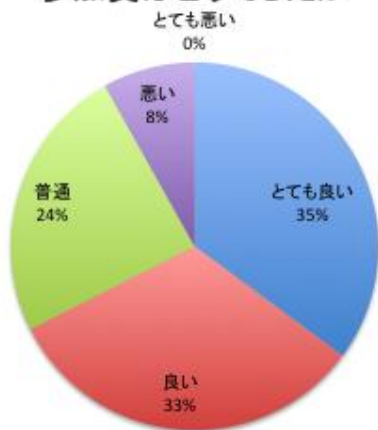
今回のアステージはどうでしたか



今回のアステージの参加人数はどうでしたか



参加費はどうでしたか



今回友達をつくることはできましたか



食事の量はどうでしたか



# 第16回 ASTAGE CAMP 2015 秋

文責：アイカワ サナミ

## 《はじめに》

3年生が引退し人数が少なくなった105スタッフが、一か月という短い期間で協力して準備を進めてきたアステージキャンプであった。今回のテーマとしても挙げた「他の国の理解を深める」という目標を達成するために、アイスブレーキング、ワークショップ、レクリエーション、野外炊飯のすべてにおいて、充実したアクティビティになるよう工夫されていたように感じる。昨年や一昨年の反省も生かして行うことができたキャンプであったが、今年の反省なども踏まえて報告を記す。

## 《概要》

日時：2015年11月14日～15日

場所：横浜市こども自然公園青少年野外活動センター  
(横浜市旭区大池町65-1)

参加人数：スタッフ含め66名

## 《スタッフ役職》

総括	アイカワ サナミ
副総括	ナガトモ アヤカ
アイスブレーキング・ピクニック班長	アキモト リョウタ
食事班長	ナベタ カホ
レクリエーション班長	タカハシ ユカ
ワークショップ班長	キム ミソ
●引率教員	藤井桂子（国際戦略推進機構）

## 《当日までの流れ》

夏休み	: 施設予約、日程、班の決定
10月上旬	: 各班行動開始
10月下旬	: 予算の決定、施設の事前打ち合わせ、ポスター作製、参加者募集開始
11月上旬	: しおりの作成、参加者募集、各班買い出し
当日	: 食事班・ピクニック班買い出し

## 《当日のスケジュール》

### 1 日目

- 12:00 横浜駅集合
- 13:10 最終グループ出発
- 13:45 入所式
- 14:00 アイスブレイキング
- 14:20 休憩
- 14:30 ワークショップ
- 16:15 部屋に荷物移動
- 16:30 野外炊飯
- 18:00 夕食・入浴
- 22:00 就寝

### 2 日目

- 7:00 起床
- 7:30 朝食
- 8:30 サンドイッチ作り
- 10:00 退所準備
- 11:00 退所式
- 11:30 室内レクリエーション
- 12:00 ピクニック
- 13:00 解散

## 《反省》

総括としての反省を以下に挙げる。ワークショップ、食事、レクリエーション、アイスブレイキング、ピクニックについては各班のリーダーがまとめたページを参照してほしい。来年度以降の総括の人は、ここに挙げた事を参考にして進めてほしい。

### ● 参加者募集

10月から来た留学生が多い、宣伝が留学生に対して十分に行き届かなかった、等の理由により、参加者の集まりが悪く、募集期間を延長することになった。また、参加費決定が遅れたことにより、広報の開始が遅れてしまったことも原因の一つであると考えられる。参加者募集に関わる内容を早期決定する必要性を感じた。そのほかにも、スタッフが個人的に親しい留学生に宣伝する等の対策をするべきであった。

●スタッフによる施設の場所確認

当日、集合してから班ごとに施設まで移動したが、南万騎が原駅に到着してから施設までの道で迷い、到着予定時刻よりも大幅に遅れて到着した班が多かった。スタッフは施設までの道のりを前日までにしっかり把握するべきだと感じる。

●参加者の参加度

ワークショップやレクリエーションの際に、積極的にアクティビティーに取り組む参加者と輪に入れずにいる参加者に分かれているように感じた。同じグループのスタッフが配慮して、参加者同士のコミュニケーションを増やすように努める必要性を感じた。

●スタッフの予定確認

アステージキャンプの流れを把握しきれていないスタッフがいたため、当日の進行に問題が生じることがあった。前日までに配布したしおりを忘れずに持参し、こまめに流れを把握するべきであった。



《参加者名簿》

●参加者 44名

男性 25名

女性 19名

	国・地域		国・地域
1	中国	1	日本
2	日本	2	日本
3	日本	3	アメリカ
4	日本	4	アメリカ
5	フィンランド	5	ベトナム
6	ベトナム	6	イギリス
7	韓国	7	日本
8	ドイツ	8	インド
9	日本	9	イギリス
10	日本	10	中国
11	韓国	11	中国
12	ベトナム	12	エジプト
13	ドイツ	13	中国
14	日本	14	中国
15	ドイツ	15	イタリア
16	インドネシア	16	中国
17	マレーシア	17	中国
18	アメリカ	18	中国
19	日本	19	日本
20	韓国		
21	オーストラリア		
22	アメリカ		
23	カナダ		
24	ベトナム		
25	コロンビア		

●スタッフ 21名

男性 9名

女性 12名

氏名	国・地域	氏名	国・地域
オクムラ ダイチ	日本	アイカワ サナミ	日本
アキモト リョウタ	日本	ナガトモ アヤカ	日本
リ ショウ	日本	ナベタ カホ	日本
キクチ マサカズ	日本	イトウ マリア	日本
イトウ タイチ	日本	オノデラ リホ	日本
ツボイ シュンスケ	日本	ユキ カヨ	日本
イリヤマ ダイガク	日本	キム ミソ	韓国
グエン ニュウ ナム アイン	ベトナム	イマイ リホ	日本
フカサワ コウタロウ	日本	シミズ ナツキ	日本
		タンノ アイ	日本
		レ ゴック バオ ヴィー	ベトナム
		マツバ モエ	日本

# アイスブレーキング・ピクニック班 報告書

文責：アキモト リョウタ

## ・内容

一日目はアイスブレーキング（以下アイブレと記す）として、爆弾自己紹介というものを行った。ルールはいたってシンプルで、グループで円を作り音楽を流している間ボールを投げて回し続け、音楽が止まった時にボールを所持していた人が封筒の中に入っているお題に沿って自己紹介をする、といったものである。これを六つほどのグループに分かれて行い、どのグループも盛り上がっている様子だった。

二日目はピクニックを担当したが、予定ではレクリエーション（以下レクと記す）班のレクの前にピクニックがあったため、特にピクニック中にレクなどを用意する必要はないと考え、飲み物とお菓子を提供し談笑の時間としてピクニックを設けた。しかし、当日の雨、また朝食のすぐ後にお菓子を出すのはどうなのかという意見もあり、レクとピクニックの順番を変え、屋内でお菓子パーティーをしながらアステージのアンケートに回答してもらう時間となってしまった。これもこれでまあまあ盛り上がったようだが改善の余地はあった。

## ・良かったところ

アイブレに関しては、内容がいたってシンプルで伝わりやすくスムーズに進行できた。また、音楽なども様々なジャンルを流したことで会場の雰囲気も盛り上がった。

ピクニックに関しては、当日臨機応変に順番を変えるなどの対応ができたこと、また多めにお菓子を用意しておいたことで参加者に不快な思いをさせずに済んだことなどが挙げられる。

## ・反省点

アイブレの改善点としては、グループをもっと小分けにするべきであった。一班十人構成で十五分間だと、音楽を流して止めて発表しての時間を一分だとすると、単純計算で十五人回るかと思われたが、班によっては人が重複してばかりで、結局アイブレとしてではなく個人的に自己紹介をしてもらうことになってしまった。

また、ピクニックに関しては今回ほぼ何も用意をせずお菓子パーティーにしてしまったことを反省しなければならない。レク班が別であるならば、ピクニックならでは（例えばお菓子でロシアンルーレット？）などを用意してもっと充実度を上げるべきであった。

・事前準備に関して

言い訳ではあるが、今回アイブレ・ピクニック班では室長、副室長の三人が固まってしまったため皆忙しく、なかなか班としてのミーティングの時間が取れなかった。そのなかでも、ラインなどを使いコミュニケーションをとれたことはよかったが、もう少し話し合いができれば内容も詰められたかもしれない。

・注意事項

お菓子は多めに買う方がよい。

アイスブレーキングは音楽なども使ってとにかく盛り上げたい。

毎回のことではあるが早め早めに動き出すべき。

ピクニックは雨天に備え屋外だけでなく屋内の場合もしっかり考えておくことが大切。

# ワークショップ

日時：11月14日 14:30～16:15

場所：ホール

文責：キム ミソ

## テーマ

### 《伊藤太一 世界一周の旅》～太一の旅行プランを当てよう～

#### ・やり方&ルール、今回のワークショップ（WS）のねらい

今回は、スタッフ側が用意したもの（ヒント集）を使い、国や経路を当ててもらおうというもの。このWSのねらいとしては、風景やその国の人だから分かるようなヒントを用意することで、出身国の留学生と話すきっかけを作り交流してもらおうというものであった。

#### ・準備段階の反省点、良かった点

**反省点：**シフトの人手不足や他のミーティング等（105内の各部局や日本語トークタイム）と日程が被ってしまい、なかなか会ってミーティングすることが出来なかった。よって、LINE等で話し合うことが増えなかなか会話に入れなかった人もいた。⇔逆に、良かった点として会えない代わりに互いに電話をしながらミーティングをすることもあった。

なお、WS資料等のカラー印刷をしたい場合には事前に相談が必要。

**良かった点：**準備段階で仕事をできる限り均等に割り振ったので、一人が沢山仕事をするという事が無かった。WSの内容（テーマからルールまで）をみんなで一緒に考えることができ、みんなのアイデアが詰まったWSにすることが出来た。

#### ・当日の反省点、改善すべき点、良かった点

**反省点：**準備に時間が足りなかったこと。ゲームのルールが複雑で英語での説明が困難であったこと。ヒントや問題が簡単すぎてみんなヒント屋さんに行きに来なかったこと。班に一人はバイリンガルを入れたつもりであったが、なかなか全員が輪の中に入って一緒に考えることが出来なかったこと。点数のつけ方が複雑で最後の方ごたついてしまったこと。班のメンバーの名前が間違っていたり、抜けている人がいたりしたこと。

**良かった点：**最後の時差計算で能力を発揮しみんなから褒められた人もいた。全体として良かった点は、WSは固いイメージがあるがみんな学びながら明るい雰囲気を楽しむことが出来たこと。参加者がWSに高い評価をつけていた。

## その他

前回、模造紙にペンで書いてしまって床にインクがついてしまったので、今回は模造紙に書かなかった。スタッフのおかげでクオリティーの高い準備品が出来た。ゲームにスタッフが入っていたので、その後も話すきっかけになった。



# 食事

文責： ナベタ カホ

## ●メンバー

◎ナベタ カホ

○グェン ニュウ ナム アイン

ユキ カヨ

タンノ アイ

ホンジョウ ミサ

イリヤマ ダイガク

リ ショウ

## ●内容

夕食(野外炊事)シチュー、チキン、ハラルカレー

65人を6班に分けて行う。

野外炊事場↓

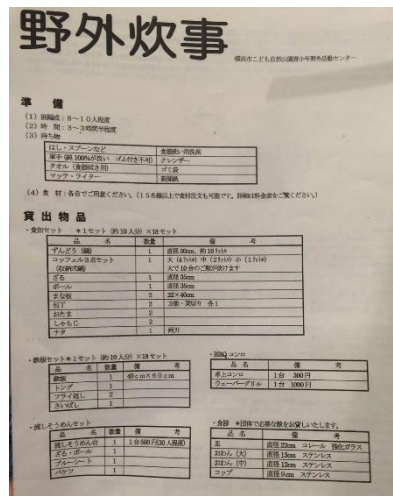


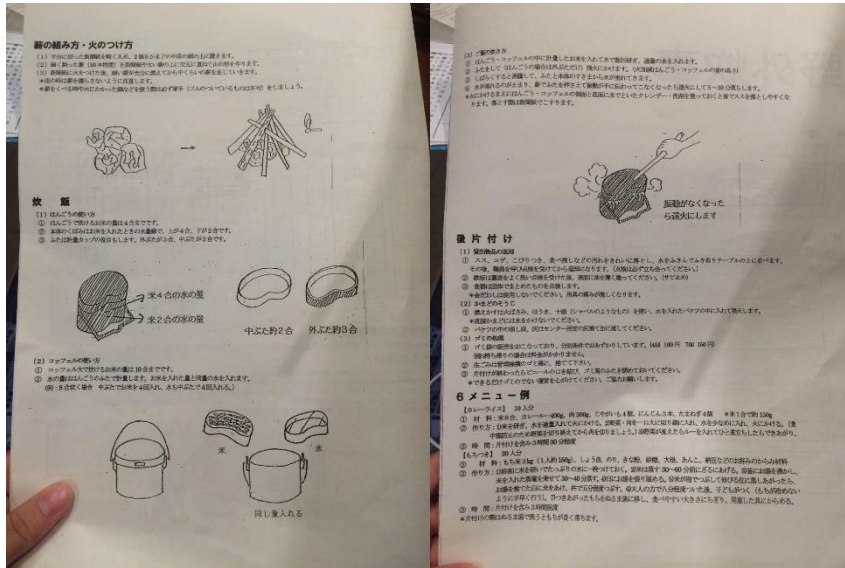
↑各班に1セット。

足りない分は追加してもらえ。



A,Bを使用予定だったがBに6班で行った。ワイワイできたが片づけのとき狭い。





朝食

サンドイッチ、コーンスープ

●準備

10/19 第一回食事班ミーティング(メニュー決定)

10/20 第二回食事班ミーティング(必要なもの確認)

11/14

11:10 横浜駅集合 買い出し

15:30- ワークショップを抜け室内キッチンで作業(15:30-17:30 しか使えない)

ご飯炊く、ハラルカレーづくり

16:30- 野外炊事

17:15 室内のご飯を取りにいく

18:00 完成 食事

19:30- 片付け



片付け終わり次第室内キッチンでサンドイッチ具材準備

- ・タマゴ
- ・ツナマヨ
- ・レタス洗ってちぎる
- ・キュウリ切る
- ・トマト切る

22:00 には完全撤収

11/15

8:15 食堂集合 準備

8:30 来た人から席についてサンドイッチづくり 朝食

9:45 キッチン片付け完了

#### ●重要

- ・ モスリム学生にはハラルカレーを作った。下記ハラルフード店（綱島駅の近く）にて購入した。  
<http://agmtrading.rh.shopservice.jp/hpgen/HPB/shop/business.html>
- ・ レトルトのコーンスープは豚を使用しているのがハラルの人にはNG
- ・ 食材は事前に注文しておいて当日業務スーパー緑園都市店で購入→タクシー2台でこども自然公園青少年野外活動センターに運んだ。タクシー代は一台2000円くらい。
- ・ スーパーに一度下見に行って商品確認。後日ファックスを送り、確認の電話をして注文。
- ・ 65人分でだいたいちょうどよかった。レタスは多すぎたから二個でよい。飲み物も今回の3/2以下でよいと思われる。
- ・ ふきんは多めに必要。
- ・ 当日買い出し以外に野外炊事用軍手購入、新聞紙は家から持ってきた。
- ・ 野外炊事後片付けの仕方、特に洗い物の仕方を事前に参加者に伝えておくべきだった。鍋は焦げ付きをしっかりと落とし、洗ったものはふきんでしっかりと水をふき取らないとやり直しになってしまう。
- ・ チキンは生焼けに注意。
- ・ 野外炊事は雨だと辛いけど、みんな楽しそうに作って交流できていたので良い試みだったと思う。
- ・ 朝食に夕食の残りのシチューを出したら好評であった。温かいものがあるとよい。

# レクリエーション

文責： ツボイ シュンスケ

ASTAGE CAMP二日目のレクリエーションは、雨天の影響のために室内で行われた。当初予定していた「しっぽとりゲーム」をやめ、ジェスチャーによる伝言ゲーム4問と三択クイズ12問により、かなり盛り上がった。



伝言ゲームに関しては、A～Fチームまでの6チームを作り、お題を体による表現だけで伝えていくゲームであった。ジェスチャーを用いるのみという、もどかしい状況で相手にメッセージをなかなか伝えられず、そのもどかしさを楽しんでいたのではないのでしょうか。しかしながら、当初予定していた時間制限を急に無くしたことで、だらだら伝えていっている感が否めなかったため、事前に全体で内容をしっかり共有し、決めたプランを実行していくべきではあったと考えています。

三択クイズは定番ではあるが、毎度のこと高評価であったと感じています。12問という多すぎず、少なすぎずの設問数で、難易度も標準的な問題にそろえられたのがよかったのかと思います。

反省点については、藤井先生にもご指摘いただいた通り、最後の問題の、アステージキャンプに来ている留学生の数を数える問題の答え（人数）を事前に数えておくべきだったと感じました。

また、クイズでの司会を務めていた人が日本語、英語を両方とも担当していたので、それぞれの言語で分けるべきだと思いました。レクリエーションを進めていく中で、留学生に対して説明がしっかり伝わっていない面もあると共に、こちらの説明が準備不足だったという反省があります。

また、しおりに記載するゲームの詳細につきましても、作成し始めた時期が遅かったことから、バタバタとしてしまい、内容についての言及をもっとしていけば良かったのかなと感じました。これらの事項を反省点とし今後の105スタッフとしてイベントや業務に関わっていきたくとレク班一同考えています。



## 105 2015年度 主な開催イベント・活動

編集：キム ミソ

### 4月 春 Welcome Party

4月17日開催 参加人数 215名

4月に入学する留学生や日本人学生と在学学生を対象とした歓迎会。会場は例年第一食堂もしくは第二食堂で行う事が多い。毎回150～200名の参加者がいる。

今回のパーティーでは105の概要をまとめた模造紙を壁に貼り、留学生や日本人参加者に105について知ってもらう機会とした。



### 5月 春アステージキャンプ

5月30、31日開催 参加人数 76名

一泊二日で行われる留学生と日本人との交流合宿。様々な国の文化をもった留学生と日本人が共にご飯を作ったり、レクリエーションやキャンプを行ったりする交流の場を設けている。毎年60～80名の参加がある。



## 7月 BBQ パーティー

7月10日開催 参加人数 110名

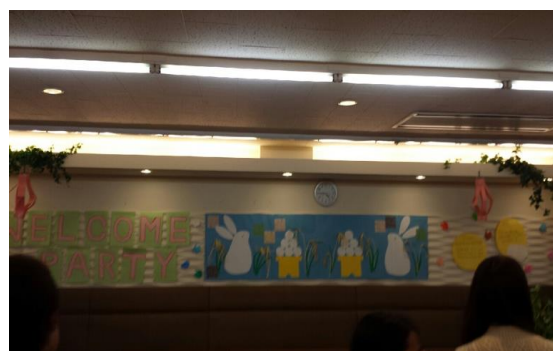
野外音楽堂で行われる夏のイベント。特に参加者等の資格制限も無く、野外音楽堂という学内の目立つ場所で行っているため、当日の飛び入り参加も多い。レクリエーションとして、日本の夏の風物詩であるスイカ割り等を行った。天気が良かった今回は100人以上の参加者があった。



## 10月 秋 Welcome Party

10月9日開催 参加人数約 200名

秋学期に入学してきた留学生と、既存の留学生や日本人学生が交流するための歓迎会。会場は例年第一食堂もしくは第二食堂で行うことが多い。毎回 200 名程の参加者がいる。2015 年度は、日本の秋の風物詩であるお月見を体験してもらおうとお団子などを用意した。また、会場装飾にもこだわり、月やうさぎをスタッフが手作りした。



## 11月 秋アステージキャンプ

11月14、15日開催 参加人数66名

春同様一泊二日の交流キャンプ。あるテーマについて留学生と共に考えたり問題を解いたりすることで、多文化を理解し新たな知識を身につけられるようワークショップを行った。今回は夕食を野外炊飯にし、参加者とスタッフが共に夕食を作ったことで交流が深まった。



## 11月 スポーツ大会

11月27日開催 参加人数 30名

2015年度新たに開始されたスポーツ大会。言葉の壁を越え共にスポーツをすることで交流を深めるのが目的である。第一回目は30名程の参加者と共に体育館でバスケットボールやドッジボールを行った。今後も2、3ヶ月に一回開催していく予定である。



## 1月 インターナショナルフードパーティー

1月22日開催 参加人数 89名

留学生と共に様々な出身国の料理を作って食べるというもの。同時に、日本の文化体験コーナーを設けたり、日本食も出したりしている。例年おおよそ10ヶ国前後の料理が提供されており、今回は12ヶ国の料理が用意された。このイベントでは、準備の段階から留学生と共に企画を進めることでスタッフと留学生とが交流を深めている。



## その他の活動

### サークル隊

サークル隊は留学生がサークルや部活に入る手伝いを行う。この活動も 2015 年度より本格的に始動した。新入生歓迎（新歓）期間である 4、5 月が活動のメインで、サークル側に留学生の入会が可能かどうか確認を取りつつ、入りたいサークルと留学生とをつないでいく。今年度、実際に 105 の仲介を通じサークルに入った留学生は 6 名で、今後も活動の成果が期待できる。

### 日本語トークタイム

曜日を定め毎週昼休みに行っている活動。今年度は火曜日に実施した。留学生の日本語会話を練習したいというニーズに応じて開催されている。留学生が授業で習った日本語を楽しく練習できるように場を作っている。トークのテーマについても季節に合わせたものを準備しており、例として 7 月には七夕を取り上げ留学生と共に短冊に願いごとを書いた。





## 国際教育センター2階ロビーにて 日々の交流・相談活動の様子

月～金：11時30分～14時30分オープン（長期休暇期間を除く）



### 105 来室者記録

春学期： 約 370 名

秋学期： 約 450 名

# アステージキャンプ 2015 年度活動報告書

2016 年 3 月発行

編集 横浜国立大学 国際教育センター105

発行 横浜国立大学 国際戦略推進機構

〒240-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台 79-1

電話 045-339-3187